

令和6年高島市教育委員会第3回臨時会会議録（要旨）

- 1 開催日時 令和6年8月21日（水）
開会 午後2時00分 閉会 午後2時50分
- 2 開催場所 高島市役所新館3階 会議室11、12
- 3 会議次第
教育長あいさつ
議第55号 令和7年度に小中学校および小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書の採択について
- 4 出席委員
川島教育長、橋本委員、高木委員、森委員
- 5 事務局出席者
饗庭教育総務部長、饗庭教育指導部長、平井教育総務部次長（教育総務課長取扱）、川原林学校教育課長、本田学校教育課指導主事、中村教育総務課主査、藤本教育総務課主事
- 6 会議を傍聴した者 15人
- 7 議事の経過 別紙のとおり

議事の経過

開会 教育長が第3回臨時会の開会を宣言

会議録の署名委員の指名 橋本委員、高木委員

議題の公開／非公開 全て公開

議第55号 令和7年度に小中学校および小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書の採択について

【説明】 川原林学校教育課長

本件は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条の規定に基づき、令和7年度に小中学校において使用する教科用図書および小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書を採択することにつき、議決を求めるものである。

高島市教科用図書選定委員会から答申を受け、採択案としたもので、別冊資料については、選定委員会において、調査研究員が調査研究した結果を一覧にまとめたものである。

まず、令和7年度に小学校において使用する教科用図書について説明する。小学校においては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条の規定等に基づき、令和5年度に採択された教科用図書と同一のものを採択する。

次に、令和7年度に中学校において使用する教科用図書について、選定した教科用図書の出版社と選定理由を説明する。

「国語」は、「光村図書」である。

生徒に見通しを持たせる工夫が多く、国語の資質や能力を焦点化、視覚化した「学びのカギ」のページと、思考の手順や活動の流れを見通せる「学びへの扉」のページを合わせて示すことで、生徒自身が学習内容を的確に理解し、課題解決に向かえるように構成されている。教材の全領域に「学びのカギ」として学習の基本的な観点を示すことで、領域を超えた学びのつながりが明確になっている。各学年の古典教材には、資料として、登場人物や全体像を解説するコラム、絵巻や地図が掲載されており、生徒の想像力を刺激し、古典の世界への興味や関心を喚起するような紙面である。

「書写」は、「三省堂」である。

各学年の「やってみよう」というコーナーでは、学習の手順を具体的に示し、見通しをもって学習に取り組めるように構成されている。硬筆の学習である「書いて身につけよう」のコーナーでは、それまでの毛筆の学習で示していた文字を手本として掲載しており、毛筆で学んだことを硬筆に生かせるよう工夫がされている。また楷書から行書への学びをスムーズに行うため、まず楷書で字形の整え方や筆使いをおさえ、その上で行書の特徴を比較しながら学びを展開していくように丁寧に設定されており、指導の場面で活用しやすくなっている。

「社会（地理的分野）」は、「帝国書院」である。

写真や地図資料が豊富かつ鮮明で、大きく配置され全体的に見やすく、生徒が興味、関心を持てるよう工夫されている。デジタル教材についても、資料や動画の種類が多く、様々な学習活動に活用できる。また教科書冒頭から、持続可能な社会（SDGs）を意識させるつくりとなっており、地理の学習を通してよりよい社会を目指すことの大切さが明確化されている。

「社会（歴史的分野）」は、「帝国書院」である。

全体的にイラストが多く資料も鮮明で、生徒の興味や関心を喚起し、多面的、多角的に思考や判断できるような工夫が多く見られる。特に「タイムトラベル」のイラストは、各時代の特徴をとらえやすく、歴史学習が苦手な生徒にも関心が持てるような構成である。またコラムや特設ページが豊富で、持続可能な社会を目指した内容も多く、生徒が歴史学習を通して持続可能な社会を目指すことをより意識できるようにつくりである。章のまとめ学習では、学んだことを活用しながら「主体的・対話的で深い学び」を目指した課題設定があり、生徒が多面的、多角的に考察しやすいような工夫がされている。

「社会（公民的分野）」は、「東京書籍」である。

各ページに「スキルアップ」「みんなでチャレンジ」「チェック」「トライ」など非常に多くの学習課題が設定されており、普段の授業で生徒が様々な学習活動に取り組むことができる。各章ははじめの「導入の活動」のページでは、探究課題を設定し、学習の動機付けや学習の見通しの方向付けを行えるよう工夫されている。まとめとなる「ふり返ろう」のページにおいては、章を貫く問いの解決に向けて探究課題が設定されている。

「地図」は、「帝国書院」である。

全体的に地図の配色が鮮明で、文字が大きく、イラストも豊富で生徒が興味や関心を持ちやすい工夫がされている。生徒が多面的、多角的に考察し、学習課題に主体的に取り組めるよう、他社と比較してより適切な資料を掲載しており、その種類も豊富である。巻頭の「地図で考える持続可能な社会」のページでは、様々な地球規模の問題を取り上げており、その問題解決を目指すことを強く意識したつくりである。

「数学」は、「東京書籍」である。

「クイックチェック」という適用問題を設けたり、節末に「基本の問題」を設けたりして、内容の理解を細かい単位で確認し、つまずきに早期に対応できるように構成されている。問題には、ヒントや解答のステップ表示、類題などがあり、生徒が主体的に学ぶことができる。さらに個別最適な学びのために、必ず身につけてほしい基礎的な問題にハートマークがついていたり、各章の問題が基礎編と応用編に分かれていたりするため、学びの自己調整がしやすい。また授業でも自学自習でも使えるデジタルコンテンツが充実している。

「理科」は、「啓林館」である。

安全に観察や実験を行うために、「実験（観察）のスキル」についての記載や、「注意・安全マーク」によって、必要な技能の解説や注意点が分かりやすく示されている。各単元に設定された実験・実習に対応したワークシート「探Qシート」が巻末に付属しており、自分の考えを書いてから話し合い、他者の考えも参考にして、根拠のある仮説が立てられるように構成されている。学習の流れに沿って配置されている二次元コードは、コンテンツ数が多く、また各章のはじめにある「はてなスイッチ」のコーナーでは、各章の表紙の動画につながり、生徒が自ら問題を見つけることができるよう工夫されている。

「音楽（一般）」は、「教育芸術社」である。

資料の精選により紙面に適度な余白が生まれ、ページを開いた時に窮屈さを感じないレイアウトとなっており、特別な支援が必要な生徒でも、集中力が持続できると思われる。教材ごとに「考えたいポイント」が掲げられ、この問いかけによって生徒が課題意識をもち、主体的に学習に取り組むことができると考える。二次元コードを読み取ると伴奏が流れ、様々な場所や時間に練習するこ

とが可能で、個別最適な学びの実現につなげていくことができる。

「音楽（器楽合奏）」は、「教育芸術社」である。

どの楽器についても、奏法の適切な文章とイラストや写真を用いて解説されており、楽器の基本的な技能の習得に配慮されている。楽器が演奏できるようになるだけでなく、よい音色、よい演奏にするためのアドバイスが書かれており、個人の能力に応じた発展的な学習活動ができると思われる。「まなびのコンパス」というコーナーでは、感じ取ったことや気づいたことを他者と話し合う活動や、一緒に演奏しながら表現の工夫ができるように、わかりやすく構成されている。

「美術」は、「開隆堂」である。

二次元コードを読み取ると、技法に関する動画、アイデアシート、鑑賞シート、振り返りシートが一覧でまとめられたサイトにつながり、用具や技法の解説、鑑賞に役立つ資料や動画が必要に応じて活用できる。題材ごとに「知識・技能」「発想・構想」「鑑賞」の手掛かりとなる活動が掲載されており、生徒が教科書を見て題材の意図を読み取ることができる。掲載されている作品も代表的なものが多く、その題材を制作する生徒作品も掲載されており、順序立てて制作の手順を視覚的に見ることができる構成である。

「保健体育」は、「東京書籍」である。

健康で安全に生活するために、生涯にわたって役立つ技能が「巻末スキルブック」としてまとめられており、リラクセーションや心肺蘇生、日常生活で活用できる内容が掲載されている。「〇〇はどうなっているのでしょうか」「〇〇について考えてみましょう」といった課題を発見したり、学んだことをさらに深めたりする発問が数多く提示され、生徒の思考を促す工夫がされている。学習した内容や、専門家へのインタビューが動画で視聴することができ、理解を深めたり、運動やスポーツの楽しみ方を知ったりすることでき、将来に生かすことができるよう工夫されている。

「技術・家庭（技術分野）」は、「開隆堂」である。

技術の科学的な原理や法則、基礎的な仕組みが分かるイラストや写真が数多く掲載され、学習内容を理解しやすい工夫がされている。また、作業をしている人物の視点から撮影した写真を使用することで、生徒が手元の安全にも留意できるように工夫されている。学習課題が具体的に示され、生徒が課題意識を持って学習に取り組むことができるような工夫や、実験などを通して科学的な視点を育てる配慮がされている。各内容の最後には、社会や環境と技術の関わりについて、技術の在り方や活用の仕方を客観的に判断、評価し、主体的に活用しようとする態度が育めるようになっている。

「技術・家庭（家庭分野）」は、「開隆堂」である。

調理実習の手順写真が、大きくわかりやすく提示され、科学的な理解を深める欄も設けており、実習で確実な理解につながるよう工夫されている。調理例や作品例には、「伝統」「防災」「環境」の観点が取り入れられ、生活の営みに係る見方や考え方の視点でも実習に取り組めるように工夫されている。デジタルコンテンツについては、ワークシートや資料の画像を端末に保存でき、タブレットを活用しやすくなっている。

「外国語」は、「光村図書」である。

新しく文法事項を学ぶ際に、「聞くこと」「話すこと」「書くこと」の順で自然と言語が習得できるよう設定され、巻末資料の「英語の学び方ガイド」では、領域別の学び方や家庭学習の仕方等が紹介されており、生徒が目的に応じて活用できるようになっている。デジタル教科書には、本文実写ドラマがあり、英語の字幕を表示したり、消したりすることができるようになっている。

「道徳」は、「教育出版」である。

「やってみよう」というページでは、直前の教材に関連した役割演技やリフレーミングなどの体験的活動が設定されており、それを元に話し合いにつなげられるように工夫されている。各教材の冒頭には問いが掲載されており、この時間に何を学ぶのか、何を考えるのかが、どの生徒にもわかりやすいように工夫されている。全ての教材に二次元コードが付いており、事前学習に役立つ「教材のあらすじ」、補足資料としての「学びリンク」「スピーチ」「動画」「心情メーター」などのコンテンツが充実している。

次に、令和7年度に小学校の特別支援学級において使用する教科用図書とその理由を説明する。教科書の選定の範囲は、通常の学級で使用されている文部科学省検定教科書に加え、文部科学省著作本ならびに学校教育法附則第9条に規定する一般図書の3種類ある。視覚的なハンディキャップを支援するための拡大教科書については、令和7年度に支援を要する生徒が在籍する可能性を考慮し、引き続き使用する教科用図書とし、拡大教科書以外の一般図書について説明する。

「国語」は、個々の実態に応じて選択することができるように、多種多様な一般図書を挙げている。選定した図書は、ひらがなや片仮名・漢字などが、児童の発達や特性に合わせて、段階的に指導できるよう工夫されている。文章表現が易しく、挿絵が多く掲載され、児童の関心や意欲を高めることができると考えられる。日常生活の身近な題材や、他の教科の内容と関連させながら学習することができるものもある。カード類については、文字に興味を持ち、繰り返し読んだり言葉づくりをしたりすることができ、「物と文字」、「事象と文」を関連付けて学習できるため、入門期の教科用図書として有効であると考えられる。

「書写」は、一般図書として学習カード類を挙げている。カードの上から直接フェルトペンで書いたり、くぼんだ文字を指で触ったりすることで文字の形を整えて書く反復練習が可能である。

「社会」および「地図」は、児童の生活経験や知識の幅、内容等を考えて挙げている。仕事に関する内容については、キャリア教育の観点から、児童が自分の適性や新たな一面を知り、将来の仕事を考える時の一助となるように構成されている図書を選定した。歴史については、児童が迷路や人探しをしながら、歴史への興味、関心が高まるよう工夫されているもの、人々、暮らし、建物、服装、農具、工具等から時代の特徴がよくわかるように描かれているものを選定している。産業や暮らしについては、各都道府県の特徴や県庁所在地、地域の特産物等がわかるよう図や写真が多く用いられたものを選んでいる。

「算数」は、基礎的な算数の概念を日常生活と結びつけながら、系統的に学習できるように構成されているもの、また、具体物の挿絵や文章表現がわかりやすく、発達段階に即して指導できるように工夫されているものを選定している。

「理科」は、生き物や自然、実験や観察に興味の持てる内容の一般図書を挙げている。表現が易しく、挿絵や写真を使って理解しやすい内容である。新たに科学実験の本に追加した「でんじろう先生の学校の理科がぐんぐんわかるおもしろ実験」は、写真やイラストで実験の方法がわかりやすく表現されており、身のまわりの物を使って実験をしながら、科学的な興味を育て知識を得ることができるよう工夫されている。

「生活」は、生活単元学習や自立活動などの時間にも有効活用できるようなものを選定している。新たに追加した「小学生になったら図鑑 入学準備から小学校生活まで楽しくなるコツとヒント366」は学校生活や日常生活など様々な場面について絵や写真を効果的に使い、分かりやすく示されている。

「音楽」は、交流授業に参加しない児童が自分の教室でいつでも音楽に親しめるものを選定している。幅広く選曲されており、手遊びなどをしながら歌に親しむことができる。

「図画工作」は、検定本にも造形遊びが数多く掲載されており、技能的に未熟で支援を要する児童でも、身近な材料を使用し、児童が一人でも楽しみながら制作活動ができる図書を選定している。

「家庭」は、日常生活の様々な場面が網羅され、衣食住など生活に必要な基礎的知識と技能および態度が身につくようにまとめられている図書を選定している。

「保健」は、自立活動と関連する学習内容が多く、特に自立活動である健康の保持、環境の把握、身体の動きが理解しやすい図書を挙げている。日常的に起こる身近なけがの対処の仕方や、男女の体の仕組みについてわかりやすく学べる図書を選定している。

「外国語」は、自分の教室でいつでも外国語に親しめる本を挙げている。日常生活でよく使われる、身近で簡単な単語や文を付属のCDやタッチペンで繰り返し聞いて、自分で発音を練習できる図書を選定している。

「道徳」は、日常生活と照らして考えられる物語文を扱った図書と、社会生活に必要な言語活動の充実が図れる言葉の絵本を挙げている。場面や状況を具体的にイメージしやすい挿絵や言葉が使われており、児童が思考を深められるような図書を選定している。

最後に令和7年度に中学校の特別支援学級において使用する教科用図書とその理由を説明する。文部科学省著作本について、昨年度までの国語、数学、音楽に加え、新たに社会、理科、家庭科について発行されたので使用する教科書として選定した。

視覚的なハンディキャップを支援するための拡大教科書については、令和7年度に支援を要する生徒が在籍する可能性を考慮し、引き続き使用する教科用図書とし、拡大教科書以外の一般図書について説明する。昨年度も採択され、多くの教科で使用している「くらしに役立つシリーズ」のうち、国語、社会、数学、理科、保健体育、家庭科が改訂された。UDフォントが使用され、これまでの3色の配色からオールカラーのイラストや写真が盛り込まれ、非常に見やすく、また現代の文化や生活様式に合った内容で、自立の力を育むことに適していると考えられる。

教科ごとに見ると、「国語・書写」は、多種多様な一般図書を挙げている。中学校の特別支援学級に在籍する生徒の言語能力には幅があり、特に国語の学習においては、それぞれの生徒の能力や発達に応じた教科書を選択できるように配慮した。書写の学習のために挙げた「子どもの字がうまくなる練習ノート」は、筆圧が弱かったり、直線や曲線を描くことが苦手だったりする生徒の運筆練習に適している。

「社会・地図」は、地理的分野、歴史的分野、公民的分野の教科書を選択できるよう配慮している。新たに追加した「キッズペディア歴史館」は、日本の主な出来事を中心に、世界の出来事や当時の社会の様子がわかりやすく学べる。さらに見出しだけで大まかな内容がわかる上、ルビも振られており、読みやすい。「まんが歴史年表大辞典」は、中学校社会科歴史的分野で取り扱う、歴史的事象が取り上げられており、かつ、一つのできごとが見開き1ページでまとめられ、授業で取り扱いやすく、理解しやすい内容である。

「数学」は、国語と同様に、生徒の能力に応じて教科書を幅広く選択できるように考えた。「改訂新版くらしに役立つ数学」は基礎編と生活編に分かれており、演習問題を豊富に取り入れ、集中して学習ができるよう工夫されている。

「理科」は、生活場面で出会う具体的なものを教材として取り上げ、精選・集約された内容の図書を挙げた。いずれの図書も、漢字にはルビが振られており、図やイラストなどの資料も見やすく、

生徒自ら学習を進めやすい工夫がされている。

「音楽」ならびに「美術」は、昨年度と同様の一般図書を挙げている。

「保健体育」では、特に「改訂新版くらしに役立つ保健体育」は、生涯にわたってスポーツに親しみ、健康に暮らしていくことの大切さを学習できるように工夫されている。また、日常生活の中で、心身の健康を維持するために必要な知識を学ぶことができる。

「技術・家庭」では、特に「改訂新版くらしに役立つ家庭」は実際の生活に結び付く題材が取り上げられ、生活するために必要な知識や技能が身につくように工夫されている。また、契約や金融トラブルについても取り上げられており、安全に生活するための知識を学ぶことができる。

「英語」は、昨年度と同様の一般図書を挙げている。

「道徳」は、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと、道徳的諸価値についての理解を図ること、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるという目標を踏まえ、生徒に応じて教科書を選択できるような一般図書を挙げている。

【質疑等】

○橋本委員

2点質問がある。

1点目、高島市は小中一貫教育が進められているが、その視点で、小学校外国語から中学校英語科への接続についてどのように考えられたのか。

2点目、先日、教科書を拝見したときに二次元コードが充実していると感じたが、一人1台タブレットが整備されている中で、二次元コードから読み取るデジタルコンテンツは教師や児童生徒にとってどのような使われ方をしていくのか。

○川原林学校教育課長

1点目の質問について、小中一貫教育の外国語教育では、音声言語に十分に慣れ親しんだうえで、文字言語に慣れ親しむことを目指しており、中学校で使用する光村図書の教科書はその面が十分考慮されている。

具体的には、1年生で帯教材 Sounds and Letters を設け、小学校で音声中心に学習してきた生徒が、音と文字の関係を確かめながら、文字を読む力を身に付けることができるように配慮されている。これにより、小学校で学習した約600語を繰り返し学習することができる。また、1年生巻頭の導入教材は、小学校から中学校への学習が円滑に進められるような内容となっており、小学校の学習事項を生徒が確認できるとともに、指導者が生徒の習熟度を測ることに役立つ。この他にも、言語教材の配列が、小学校で学習したことが中学校につながるような工夫もされている。

2点目の質問について、二次元コードは、選定した全教科の教科書でデジタルコンテンツが活用でき、大変使いやすく便利であるだけでなく、学びの広がりや深まりにつながるものになっていると各教科の調査研究員から報告を受けている。

具体的な活用場面として、選定委員会の中で特に話題になった例を紹介すると、採択案とした理科の「啓林館」の教科書では、音の学習の際に、自分の声の波長を自身のタブレット端末から見るができたり、音楽の「教育芸術社」の教科書では、合唱の際に、自分のタブレット端末で空ピアノを流し、家庭や別室でも繰り返し練習ができたりする活用例があった。

○高木委員

学校の授業や家庭学習においても、主たる教材として、教師や児童生徒が活用しやすいことが重要であると思う。教科書のレイアウトや紙面構成については、どのように調査・研究されたのか。

○川原林学校教育課長

レイアウトや紙面構成については、どの教科でも調査研究員が見やすさ、活用のしやすさについて比較、検討している。まずは、適切な情報量になっているかについてである。情報量が多すぎるとかえって学習のポイントを捉えにくくなることから、生徒の発達段階に応じて適切な情報量となっている教科書を選定している。

次に、紙面構成についてである。1時間の学習が見開きで示されている教科書が多いが、その中でも学習の流れが視覚的に分かりやすく示され、生徒にとっては見通しが持てること、指導者にとっても指導すべき内容が把握しやすく、生徒の主体的な学びを引き出しやすいかを重視して教科書を選定している。

最後に「学習のてびき」の内容についても重要な判断材料になる。学習活動の分量が適切か、ヒントが多すぎて生徒が主体的に考える機会を奪わないか等についても検討し、生徒、教師双方にとって活用しやすい「学習のてびき」が掲載されている教科書を選定している。

○森委員

2点質問がある。

1点目、滋賀県や高島市の魅力を感じることができたり、自分たちの地域に愛着や興味を持つことができたりするような教科書となっているか。

2点目、社会科について、グローバル化が進む今日、テレビ等を通して、ウクライナやアメリカ大統領選挙といったワードが聞かれ、先日、教科書を拝見したときにもそのようなワードが見受けられた。学校教育を通して、そのような社会情勢の理解につながる教材か、また国際社会を生きていくうえで、成熟した人間が形成される教材となっているか。

○川原林学校教育課長

1点目の質問について、多くの教科で、滋賀県や高島市に関する教材が扱われており、魅力を感じ、愛着を持つことにつながると期待できる。

具体的に採択案とした教科書を見ていくと、国語の「光村図書」の教科書では、1年生の資料編に琵琶湖に関係する説明的文書があり、2年生の随筆「言葉の力」の中には、滋賀県出身の染織家を取り上げられ、3年生の資料編に、「郷土ゆかりの作家・作品」が掲載されている。社会の地理的分野「帝国書院」の教科書では、琵琶湖の水利用について、京阪神との関わりや環境問題等について多面的に学習が進められるようになっている。数学の「東京書籍」の教科書では、47都道府県ごとの紙面とデジタルマップから、自分の住んでいる地域の題材を使った授業ができるようになっており、郷土愛を育むことができる。また、1年生では、滋賀県の近江上布の浴衣が紹介され、3年生の標本調査の単位では、琵琶湖の固有種ホンモロコの資源量の調査方法が取り上げられている。理科の「啓林館」の教科書では、高島市の三角州とメタセコイア、多賀町のアケボノゾウが紹介されている。家庭科の「開隆堂」の教科書には、自然とともにある住生活で高島市の「かばた」が取り上げられている。道徳の「教育出版」の教科書では、琵琶湖を扱った教材「琵琶湖とともに」が

掲載されている。

2点目の質問について、採択案とした全分野の社会科教科書で、国際社会で生きるため、平和で民主的な国や社会をつくる一人として、必要な姿勢や能力を養うための工夫がされており、それらを高めていくことが期待できる。

地理的分野「帝国書院」の教科書には、地球的規模の課題解決に向けて構想するページを設け、現代社会が抱える課題に主体的に取り組むことで、社会形成の育成につながる。地図についても、「帝国書院」の教科書は、世界各地と日本とのつながりを示した資料や、世界の宗教や料理などを紹介する資料が掲載され、国際社会に関心が持てるよう配慮し、異文化への理解を深める工夫がなされている。

次に、歴史的分野「帝国書院」の教科書には、現代社会の諸課題について、各時代の特色と関連付けて解決策を考えることで、歴史的な背景を踏まえた社会参画への姿勢を養えるよう工夫がされている。

最後に、公民的分野「東京書籍」の教科書には、持続可能な社会を実現するために、課題解決に貢献し、社会にどのように関わるかという視点から、自分にできることを考える活動が充実しており、主体的に社会形成に参画する資質や能力を養えるようになっている。

【採 決】 挙手全員により可決

閉会 教育長が第3回臨時会の閉会を宣言